

平成 23 年 7 月 20 日

高橋歩 TALK LIVE & SHOW「大自然と仲間と遊びと福島」開催について

今年 3 月に発災した東日本大震災は、わが国、とりわけ東北地方に未曾有の災害をもたらしました。なかでも福島県は、地震および津波による甚大な被害だけでなく、それに伴う福島第一原発事故による放射線問題によって、復旧・復興の道筋が見出せない状況にあります。こうした中で、本県が長期的に見て真に復興するには、地域の自信を取り戻し、「福島に住むこと」の意義を県内外に強く発信できる強固な「地域アイデンティティー」の確立が何よりも必要であるといえます。言い換えれば、今回の大災害のもと近視眼的な復興計画に終始するのではなく、100 年 200 年先、さらには 1000 年先をも見据えた地域復興計画を今こそ策定しなければならないのです。すなわち、1000 年先の子孫が「福島に生まれてよかった」、「福島に住むことが幸せだ」と思える地域環境、コミュニティの構築が、大災害を受けたわれわれ世代が果たすべき責務であると考えます。

こうしたことから福島大学経済経営学類は、今回、ベストセラー作家であり、自称「自由人」である高橋歩氏を迎え、生きることの意味、自然の豊かさ・大切さを語りあいながら、福島未来をともに考えたいと思います。後半のトークショーでは、福島在住のイベンター平学氏と筆者（奥本英樹）を加え、福島復興大計画（悪だくみ（笑））の夢を語りたいと思います。

（お問い合わせ先）

経済経営学類准教授 奥本英樹

電話・FAX：024-548-8431

夢は逃げない 人生は、楽しむためにある
逃げるのはいつも自分

自分の仕事を嫌っているようなクソッパレだけにはなりたくない

自分を知るためには、自分と話せばいい。

負けつばなしで辞めるわけには、いかねえんだよ。

ヒントはあるが、
ルールはない。

足踏みするだけでも
靴底はへるぜ

自分のやりたいことで、
いい仕事をする。

人生は
楽しむためにある。

生きることに深刻に
なりすぎるな。

すべては
自分が選んでる。



TALK LIVE

第1部

高橋 歩

Ayumu Takahashi

トークライブ

第2部

福島復興プロジェクト

3人で繰り出す壮大なプロジェクトの序章

大自然と仲間と遊びと福島

平 学 × 奥本英樹 × 高橋歩

2011年7月23日(土)

・開場/14:30 ・開演/15:00

福島大学 入場無料

L4教室

—事前予約不要—

主催：福島大学経済経営学類  後援：NPO 法人 オンザロード



1972年東京都生まれ。自由人

高橋 歩

20歳のとき、大学を中退し、仲間とアメリカンバー「ROCKWELL'S」を開店。2年間で4店舗に広がる。23歳のとき、自伝を出すために、仲間と「サンクチュアリ出版」を設立。自伝『毎日冒険』がベストセラーに。26歳で結婚。すべての両書をリセットし、妻とふたりで世界一周の旅に出かける。帰国後、沖縄に移住し、自給自足のアートビレッジ「BEACH ROCK VILLAGE」を主宰。現在は、家族4人で、無期限の世界一周旅行をしながら、世界中の気に入った場所で、仲間と一緒に、出版社、レストラン、ゲストハウス、学校など経営している。



<http://www.ayumu.ch/index.html>

平 学(たいら まなぶ)

■生年月日 1970年3月10日福島県出身

■有限会社 エム・ティ 代表

福島市にスノーサーフィン・スケートボードショップ『シュレダー』を経営。その他、スキー場においてスノーパーク制作・プロデュース、パークアイテム(ルール・BOX 他)制作、そして、エクストリームスポーツを中心としたイベント企画運営業務を全国的に展開。自身もスノーボード、サーフィン、スケートボードをこよなく愛し、福島県の恵まれた環境をいかしつつ、エクストリームスポーツの楽しさ、素晴らしさを全国にむけて発信し続けている。

奥本 英樹(おくもと ひでき)

■生年月日 1967年10月13日 大阪府出身

■現職/福島大学経済経営学類准教授

南相馬市サーフツーリズム推進委員会委員

2006年サーフアワード受賞

学問領域上の専門のほか、自然環境への配慮をテーマとした地域経済活性化プランとして「南相馬市サーフツーリズム」を提唱する。サーファー、市民、行政、観光・商工業者などが連携し、海の年間活用を通じた地域振興と市民価値向上の達成を目指している。地域の観光資源を活かしたまちづくり、理想的な地域内モビリティの実現にまい進している。